

原水協活動 FAX News

発行:原水爆禁止日本協議会

電話03 5842 6031 FAX03 5842 6033

URL <http://www.antiatom.org/> Eメール antiatom55@hotmail.com 2009年3月13日 No. 21

「核兵器のない世界を」署名に各地で賛同続々

県連合婦人会から署名簿 500 枚注文、1300 筆余の署名寄せられる **山梨**

山梨県原水協の平賀代表委員と深沢事務局長は2月のはじめに、婦人福祉会館の中に事務所を置く地域の婦人会の連合組織である山梨県連合婦人会を訪問。対応してくれた事務局長さんと署名の主旨や2010年のことを語り合い、「核兵器の問題は誰もが共通に考える大切な課題なので署名簿を会員におろしたい」と新署名500枚を預かってくれました。

3月に入り、事務局長さんから署名簿が集まっているから取りに来てほしいと連絡があり、さっそく足を運ぶと416枚の署名簿に1300筆余の署名と3000円のカンパが寄せられていました。深沢事務局長は「こんなことははじめての経験。核兵器問題の重要性と共同の拡大を感じました。この教訓を大切に、活動に活かしていきたい」と話しています。

県内首長初、都城市長が新署名にサイン **宮崎**

宮崎県の新婦人都城支部では昨年12月22日、「子どもの保険証取りあげを止めるように」と都城市役所に申し入れをしました。その席で、長峯誠市長に「核兵器のない世界を」署名の趣旨を説明し、署名へのご協力をお願いしたところ、こころよく応じ、その場で署名してくださいました。宮崎県内の首長では長峯市長が最初の署名者となります。

都城市では、新婦人都城支部と九条の会が「毎月9の日」にコープ店頭、高校前などで署名行動を続けています。3月で連続34ヶ月、ほぼ3年間休みなしです。「核兵器のない世界を」署名も500筆に達しています。

ビキニデーにむけ市へ署名賛同要請、市長・議長・教育長がサイン **埼玉**・羽生市原水協

埼玉県の羽生市原水協は、3・1ビキニデーにむけて羽生市へ新署名の賛同を要請。市長、議長、教育長から署名が寄せられました。あわせて市職員組合（自治労系）の委員長にも賛同をもらいました。委員長は、全職場に署名用紙を回すからと40枚うけとり、「1ヵ月以内に集めます」と協力を約束してくれました。これまでに31筆が寄せられています。（羽生市原水協 小林国亮）

「核兵器廃絶署名推進実行委員会」結成 **長崎**

「核兵器のない世界を」署名を被爆地ナガサキから広げようと3月6日、「核兵器廃絶署名推進長崎市実行委員会」の結成総会が長崎市内で開かれました。原水爆禁止長崎協議会の大家孝裕事務局長は「NPT再検討会議まであと1年。この会議で大きな成果が得られるよう、被爆地・長崎として署名を大きく広げていきたい」とあいさつしました。

片山明吉県原水協事務局長が国際情勢、ビキニデー集会について報告。「核兵器廃絶へ最大の好機を迎えている」という海外代表の発言を紹介し、「今日の情勢を作り出したのは毎年ビキニデーや原水爆禁止世界大会を開催してきた力」と強調しました。大家氏は「なぜNPT会議を重視するのか」など核兵器をめぐる情勢について述べ、「核兵器廃絶の流れが世界各国で中心的な課題になっている。被爆国の役割はNPTの中で廃絶の流れを決定的なものにすること」と語りました。署名目標や行動計画が提起され、参加者が拍手で確認しました。参加者からは、若者や広範な市民にアピールするようとりくみを求める意見が出されました。

「惨劇二度と繰り返さないため」若者も署名 **北海道**

北海道原水協は3月9日、暖かい日差しがあふれる札幌市の中心街で6・9行動を行いました。北広島原水協から駆けつけた浜田種樹さんは、道行く市民や観光客に「いまだに世界に2万6千発の核兵器があります。核兵器廃絶の声を国連に届けましょう」と次々署名を呼びかけました。3人連れの若い女性が立ち止まり、話し合うと「わかりました。核兵器はなくなればだめですね」と快く署名しました。駆け寄ってきて署名した若い男性にメンバーが「3月1日でビキニでの水爆実験から55年たちました」と話すと、「そんなにたったんですね。二度と核兵器は使わせないために、なくなれば」と語っていました。